

フリーアクセスフロア BFW 3000N/5000N

- ・ 標準施工要領書
- ・ 取扱説明書



【目次】

BFW3000N・5000N は、ウッドコアを芯材とし、レベル調整型支柱で構成されたスチール系フリーアクセスフロアです。このフロアは、最低床高 40mm を実現しており、耐荷重性も 2 つのラインナップがあります。ウッドコアを使用したスチール製パネルは加工性に優れており、自重が軽量化されているため、運搬効率や施工効率に優れています。

標準施工要領書

1. BFWの構成

部材・オプション部材・副資材 3

2. 床面高さ調整範囲 5

3. 施工手順

3-1 施工現場状況の確認 6

↓

3-2 スミ出し 6

↓

3-3 搬入・仮置き 7

↓

3-4 支柱の設置・レベル調整 7

↓

3-5 支柱の接着 8

↓

3-6 パネルの設置 8

↓

3-7 壁際（端部）パネルの設置 9

↓

3-8 ボーダー支柱と本体パネル（端部加工パネル）の固定 10

↓

3-9 標準支柱と本体パネルの固定 11

↓

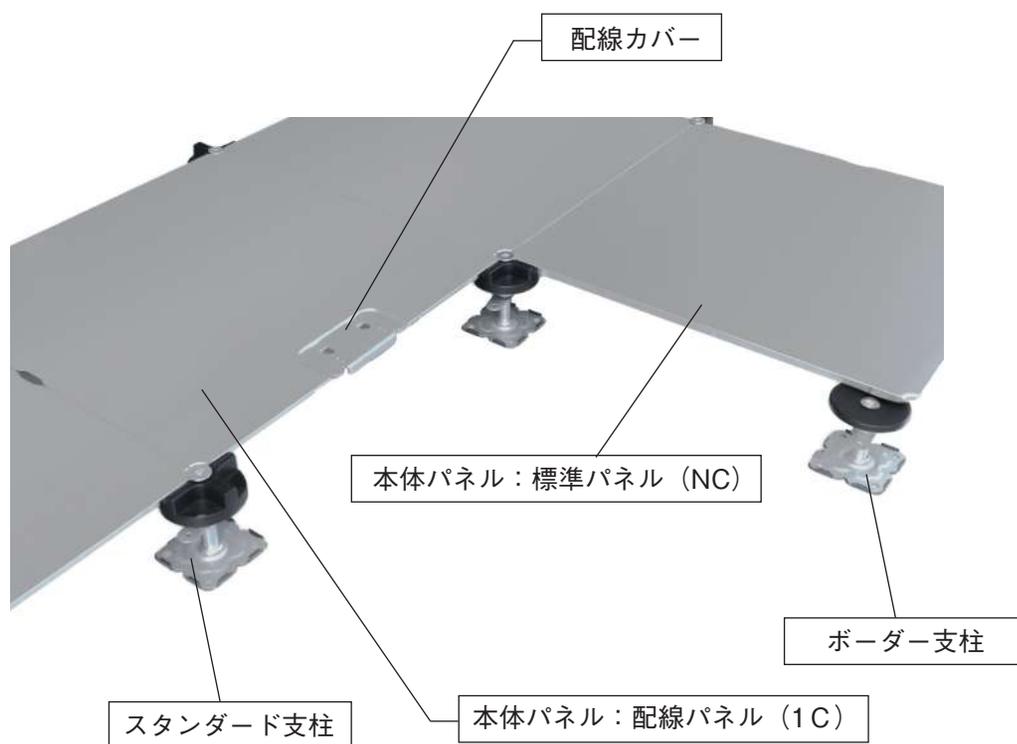
3-10 清掃 12

↓

3-11 自主検査 12

取扱説明書

4. 使用上の注意事項 13



配線パネル・アウトレット開口部 (使用例イメージ)

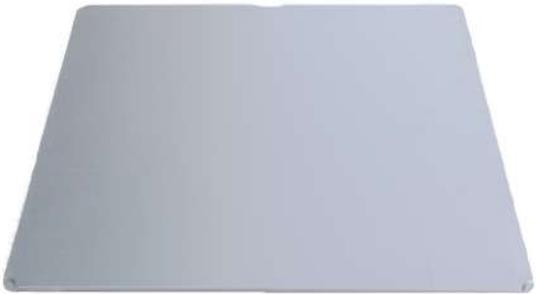


パネル交点部分 (構成イメージ)



1. BFWの構成 部材・オプション部材・副資材

本体パネル：標準パネル (NC)



用途：標準フリーアクセスフロア
 材質：3000N タイプ スチール+パーティクルボード
 5000N タイプ スチール+MDF

本体パネル：配線パネル (1C)



用途：アウトレット開口を取り付けるフリーアクセスフロア
 材質：3000N タイプ スチール+パーティクルボード
 5000N タイプ スチール+MDF

スタンダード支柱



用途：
 本体パネル4枚の交点に使用する支柱

ボーダー支柱



用途：
 ボーダー部分・カット加工パネル・補強等に使用する支柱

交点固定用ロックボルト・ベースプレート



ロックボルトA 8mm H40・H50・H60/70用
 ロックボルトB 12mm H80以上用

用途：
 スタンダード支柱と本体パネルを固定するボルト (P.11)

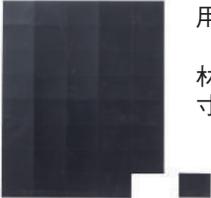
クッションカバー (糊付き)・ゴムチップ



用途：壁際 (端部) パネル、
 開口加工部分の小口に使用する (P.9)
 寸法：5×20 (糊面) ×1000



用途：スチール系素材である支柱の通電性能を絶縁するために使用
 材質：再生ポリプロピレン
 寸法：81×81×1.2mm (フック部高：5mm)



用途：がたつきがある場合に支柱の台板に取り付けて使用
 材質：ゴム
 寸法：120mm×100mm×1mm厚 (40個付き1シート)

1. BFWの構成 部材・オプション部材・副資材

皿ビス



用途：壁際（端部加工）パネルの浮き上がり調整用にパネルからボーダー支柱調整台まで打ち込み固定するビス（P.10）

寸法：4×30 ドリル外径 3.4 最大屈孔板厚 3.2

ロックレバー



ロックレバー

低床用ロックレバー

用途：支柱のレベル調整固定に使用

材質：スチール

ロックレバー寸法：90×20×1.4

低床用寸法：82×25×1.6

推奨接着剤（支柱床固定用）

商品名：ルビロン 302

製造元：トーヨーポリマー株式会社

主成分：ウレタン樹脂 JAIA(日本接着剤工業会)

F☆☆☆☆

特長：フリーアクセスフロア支持脚用接着剤です。

コンクリート面その他、多くの防塵塗料塗装

面との接着実績があり、金属・コンクリート

などの接着用途にも使用できる。

※使用時には保護手袋を必着すること

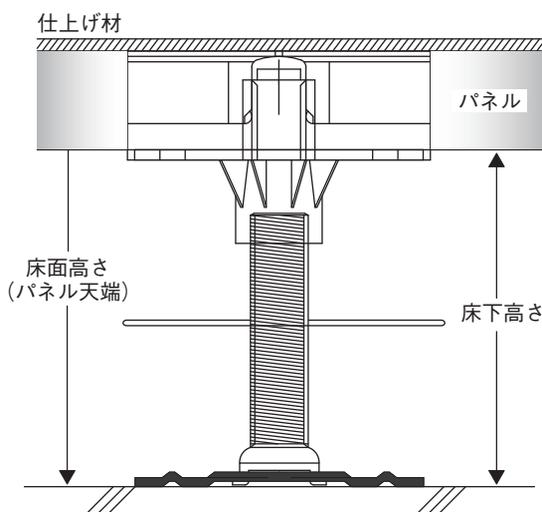
2. 床面高さ調整範囲

スチール調整台仕様

| 標準高 | 床面高さ | 有効配線高 |
|----------|-----------|-----------|
| H40 | 39 ~ 51 | 19 ~ 31 |
| H50 | 45 ~ 60 | 25 ~ 40 |
| H60/70 | 55 ~ 81 | 35 ~ 61 |
| H80 | 71 ~ 92 | 51 ~ 72 |
| H90 | 81 ~ 102 | 61 ~ 82 |
| H100/110 | 87 ~ 126 | 67 ~ 106 |
| H120/130 | 101 ~ 146 | 81 ~ 126 |
| H140/150 | 121 ~ 166 | 101 ~ 146 |
| H160/170 | 141 ~ 186 | 121 ~ 166 |
| H180/190 | 161 ~ 206 | 141 ~ 186 |
| H200/210 | 181 ~ 226 | 161 ~ 206 |
| H220/230 | 201 ~ 246 | 181 ~ 226 |

※H240 以上は受注生産となります。

※施工要領書内における H 数字表記は製品呼称です。



3. 施工手順

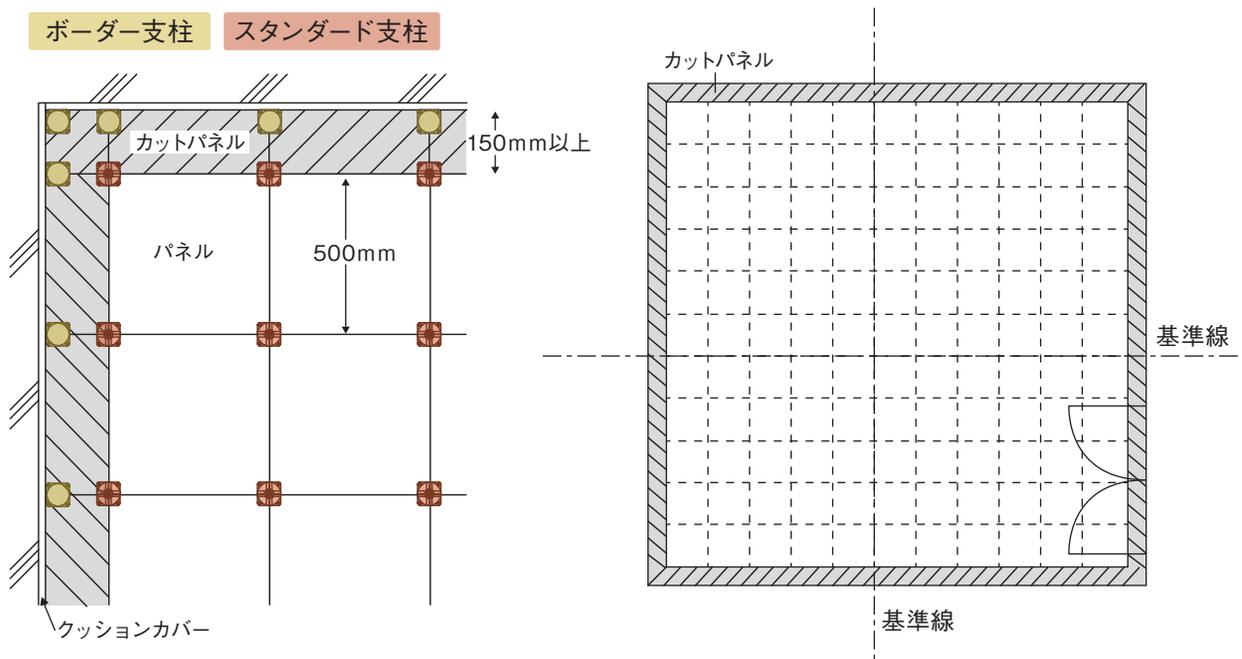
3-1 施工現場状況の確認

- ①事前に設置施工場所の現場調査をトランシット、レーザースミ出し器等で、現場の床面不陸状態の実測調査を行い支柱の調整範囲を確認し、支柱種類の選定、必要数の積算を行います。
- ②下地コンクリートの清掃を行い、極端な突起物等は除去します。
リニューアル工事・改修工事の場合は既存ビニルタイル・Pタイル・長尺シート等の除去を行います。
※ビニルタイルやPタイルの上には施工出来ません。
- ③スロープ箇所、建具周り納まり、コンセント取り出し口の割付に留意し、平面施工図を作成します。
【注意】 壁際のカット加工パネル寸法は150mm以上になる様に基準線を設定します。

3-2 スミ出し

- ①施工に必要な工具を準備します。
- ②施工図に基づき基準線のスミ出しを行います。
基準線は、原則として居室の中央付近に設置します。壁際のカットパネルが150mm以上になるように設定します。ただし、居室のサイズが小さい場合などは、出入口の中央を中心基準線にすることも可能です。しかし、居室の壁面が直線であり、直角が確保可能な場合は、長手壁面から基準線を設定します。
【注意】 壁際のカット加工パネル寸法は150mm以上になる様に基準線を設定してください。
- ③基準線より500mmピッチで施工範囲全てにスミ出し作業を行い、パネルの割付、支柱の設置位置を決めます。

【端部拡大図】



3. 施工手順

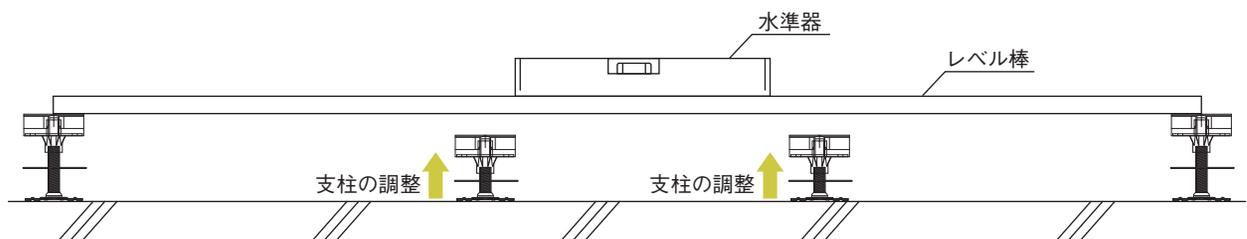
3-3 搬入・仮置き

- ①配送搬入された部材の数量を確認します。
保管、仮置きは平積みとします。壁に立掛けたり、縦置きすると本体パネルの変形等が発生する恐れがあります。また、資材の仮置きは建物の梁等に重量分散を考慮して行います。
- ②フロアパネル及び支柱等の間配りを行います。



3-4 支柱の設置・レベル調整

- ①スタンダード支柱をスミ出しした交差点に配置していきます。
- ②床面設定高さに合わせて支柱の調整をします。
基準となるスタンダード支柱のパネルとの設置部分を水準器等にて、仕上げ材の厚みを考慮しレベル調整します。
- ③レベル棒（たわみの無いアルミ製角パイプ等）または、水糸を用いてレベル調整した基準支柱より、他の支柱全てのレベルを合わせます。



- ④ロックレバーを回し支柱の固定を行います。

※BFW シリーズの H40・H50・H60/70（ロックボルト A）に付いてはボルト固定と同時にパネル本体、パネル受けキャップ、調整台、座金支柱全てが固定されますので、調整台と座金支柱を個別にロックレバーで固定をする必要はありません。（P.10）

※不意に支柱レベルが変動するのを防ぐためにも、H80 以上のボルトでは必ず使用します。

3. 施工手順

3-5 支柱の接着

- ①支柱を床面に接着剤にて固定します。

接着剤は、座金支柱の四辺及び座金部分の穴からはみ出す程度とし、床面にしっかりと押し付けます。

全ての支柱を一度に接着せず、接着剤の硬化時間及びパネル設置の数量に留意しながら順次行います。

※接着剤使用時には保護手袋を着用して行います。

3-6 パネルの設置

- ①レベル調整された支柱の接着剤が固まらない間（オープンタイム内）に基準となる本体パネルを順次セットしていきます。

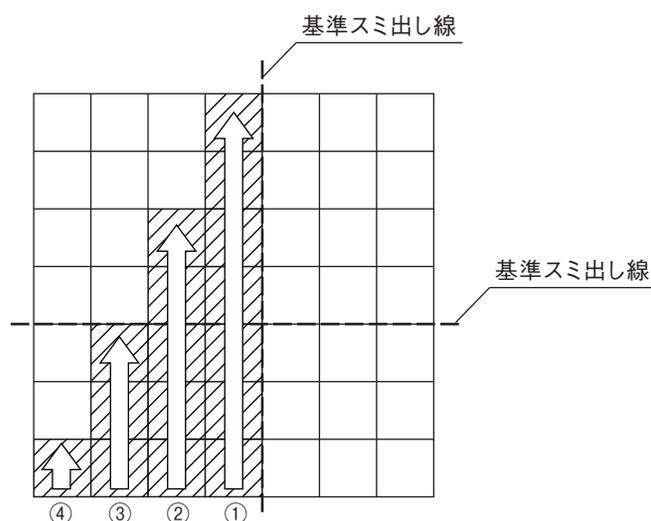
基準スミ出し線に沿って垂直、直角、また本体パネルが水平に設置されているか確認しながら敷設します。

- ②基準となる本体パネルから隣接するように順次ほかの本体パネルをセットしていきます。

この時、目地ずれを起こさないように確認しながら本体パネルをセットします。パネルの四隅を直接手で触り、がたつきがない事を確認します。

※標準パネルと配線パネルは 3：1（1㎡当たり標準パネル3枚、配線パネル1枚）を標準割合とします。

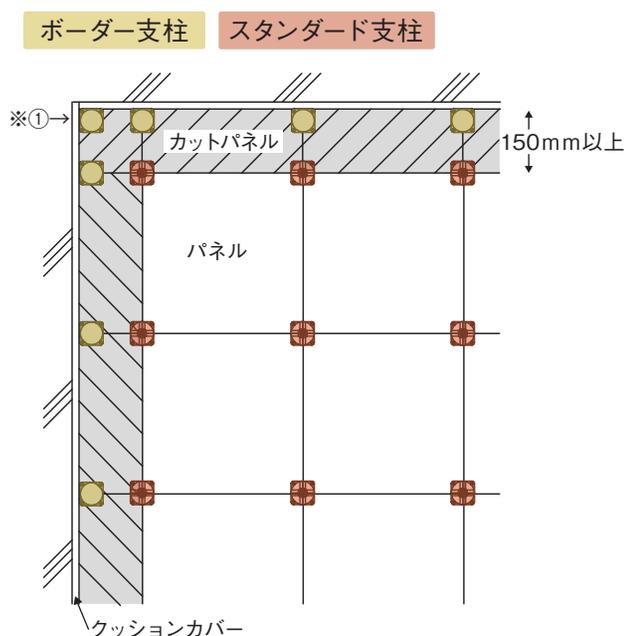
- ③カットしないパネルの交点固定用ロックボルトはこの時点で固定しますが、壁面付近のカットパネルに付随するボルトはカットパネルを敷設後に固定します（P.10 参照）。



3. 施工手順

3-7 壁際（端部）パネルの設置

- ①壁面のカット加工パネルには専用のボーダー用支柱を使用します。
できる限り壁面に寄せボーダー用支柱をセットし、隣接する標準支柱よりレベルの調整をします。
- ②標準支柱と同様に接着剤を塗布し床面に固定します。
- ③カットするパネル寸法は 150mm 以下にならないように割付しますが、やむを得ず 150mm 以下になる場合は、ボーダー支柱を目地上から移動させて設置します。
※H40・H50・H60/70 用のボーダー支柱は目地上にのみセットできます。



※①位置では通常のボーダー支柱ではなく、ホールソーを使用しパネルに穴を開けて固定するか、プラ束と皿ビスを使用して固定してください。



H80以上ボーダー支柱



H40・H50・H60/70ボーダー支柱

- ④真物のパネルと壁面までの寸法（5mm以下推奨）を測定し本体パネルを切断加工します。
加工をしたパネルの小口には配線の損傷防止、怪我防止の為、必ずクッションカバーの後処理施工します。
※この時クッションカバー（糊付き）が施工できる程度のクリアランスを考慮して切断加工します。



クッションカバー後処理施工イメージ

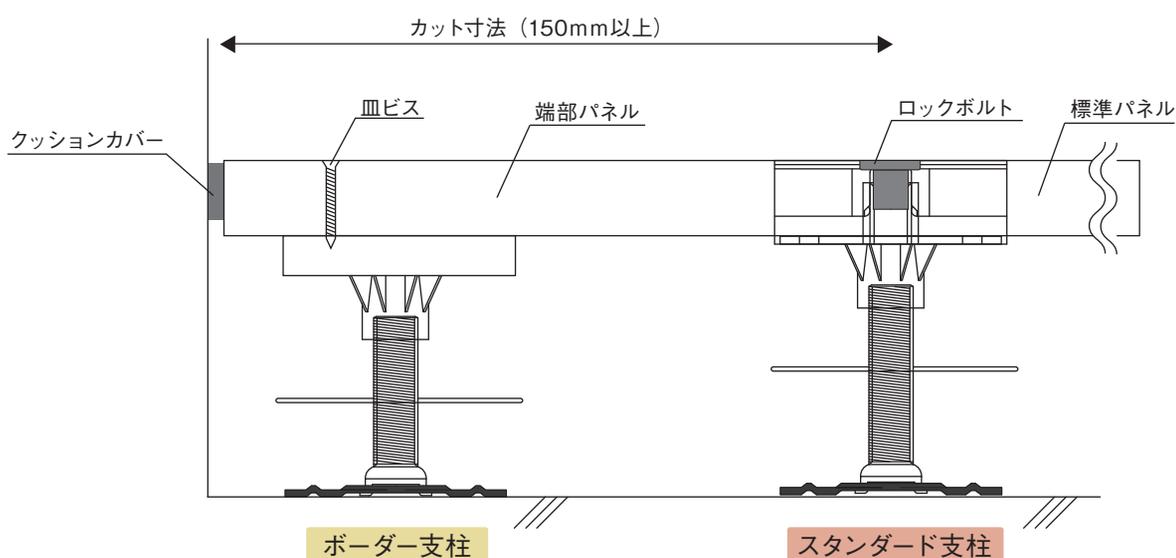
3. 施工手順

3-8 ボーダー支柱と本体パネル（端部加工パネル）の固定

①3-6章の③項目で述べたように、端部のカットパネルを敷設し、その後、標準パネルとの交点を固定するためにロックボルトを使用します。

②端部の本体パネルとボーダー支柱は状況に応じてビス止めを行います。

カットパネルは浮き上がりが発生することがありますので、パネルの上にボーダー支柱の調整台があることを確認し、皿ビス（30mm）を使用して、配線等がないことを確認した上で固定します。ボルトで固定する場合は、ボーダー支柱の中心部を避け、ビスで固定できる調整台部分に施工します。



3. 施工手順

3-9 標準支柱と本体パネルの固定

① パネル設置終了後、支柱と本体パネルをボルトにて固定します。

※支柱の標準高に合わせて下記ボルトを使用します。

② 本体パネル四辺の折返し部分を専用のボルトにて、パネルのがたつき、浮き上がり、正確に配置されているかを確認して順次ドライバーにて固定していきます。締め過ぎに留意し、本体パネルのずれ、浮き上がりが無いようにします。

| ■ 適応床高さ | | 単位: mm |
|----------|---------|--------|
| 適応床高さ(h) | 配線空間(h) | |
| 40 ~ 70 | 20 ~ 60 | |

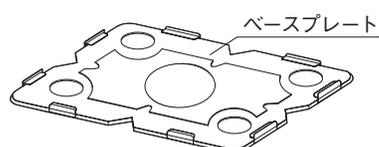
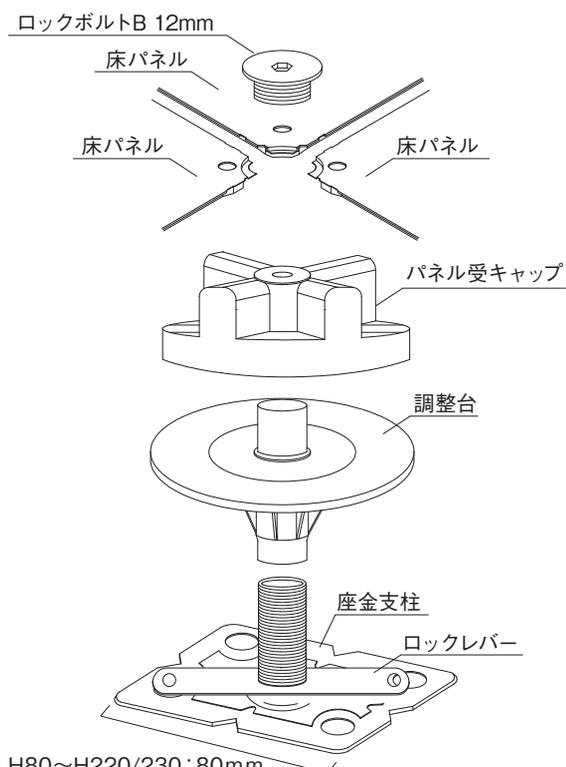
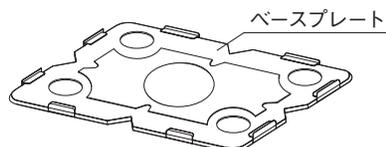
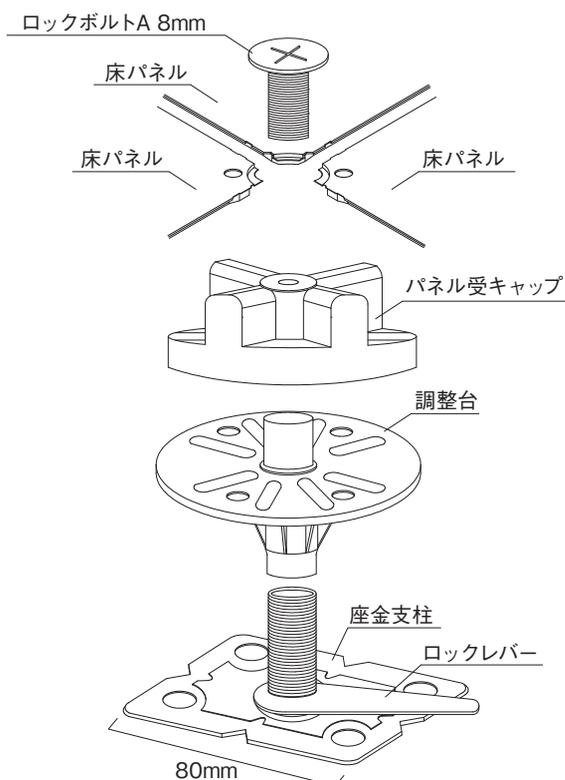


低床用ロックボルトA 8mm

| ■ 適応床高さ | | 単位: mm |
|----------|----------|--------|
| 適応床高さ(h) | 配線空間(h) | |
| 80 ~ 500 | 50 ~ 480 | |



床用ロックボルトB 12mm



3. 施工手順

3-10 清掃

- ・現場を見渡して、大きなゴミをまずは土嚢袋に詰めてください。
- ・掃除をして、小さなゴミを集めてから土嚢袋に詰めてください。
- ・コンクリート片などもあるので、土嚢袋に詰め込みすぎないように気をつけてください。
- ・ほうきなどの掃除用具を置き忘れないように気をつけてください。
- ・作業場所によっては、防塵マスクなどを使用してください。
- ・掃除だけでなく、現場の配置や状況を確認しながら作業を行ってください。

3-11 自主検査

フリーアクセスフロアBFW 自主検査表

令和 年 月 日

下記の自主検査を行いましたのでご報告します。

| | |
|---------|---------|
| 自主検査日 | 年 月 日 : |
| 担当会社・氏名 | |
| 工事名称 | |
| 工区・階数 | |

| No. | 検査項目 | 合否判定基準 | 合否 | 不合格時対応 |
|-----|-----------|--------------------|--------|--------|
| 1 | 本体パネル面レベル | 2mにつき3mm以下 | 合格 不合格 | |
| 2 | 本体パネル間の段差 | 1mm以下 | 合格 不合格 | |
| 3 | 目地の通り | 目視により支障なきこと | 合格 不合格 | |
| 4 | がたつき | 歩行により支障なきこと | 合格 不合格 | |
| 5 | 外観 | 目視により有害な破損や汚れのなきこと | 合格 不合格 | |
| 6 | 開閉性 | 開閉復元が容易なこと | 合格 不合格 | |
| 7 | 汚れ | 目視により著しい汚れのなきこと | 合格 不合格 | |

備考・別途報告欄

| |
|--|
| |
|--|

取扱説明書

4. 使用上の注意事項

- ・金庫、コンピュータ、重量書棚などの重量物を設置する場合は、荷重のかかる場所に補強鉄板及びボダー支柱で補強してください。また、これらの搬入・移動時には十分な強度のある養生が必要です。
- ・重量機器の搬入・設置の際は以下の点についてご注意ください。
 - (1)表面仕上げ材を保護する場合は、ベニヤ板(12mm以上)で覆うことをお勧めします。
 - (2)機器の設置に際しては、1ヶ所に重量が集中しないようにご注意ください。
 - (3)重量物を移動する場合は、養生合板が必要になります。
 - (4)配線用開口部の周辺は、強度が低下しますので重量物の設置にはご注意ください。
ボダー支柱を必要とするケースがありますので詳しくはご相談ください。
- ・室内で飛んだり跳ねたり走ったりなど、床面に衝撃のかかるような使い方は避けてください。
- ・清掃時には、配線機器等に水が掛からないようにしてください。
- ・スロープを取り付けた際には段差に足をひっかけたりして、怪我をすることがありますのでご注意ください。
- ・レイアウト変更等で床パネルの取外しを繰り返すことで床のがたつきが発生した場合は、ゴムチップ (P.4参照) にて補修します。

※掲載内容の規格およびデザイン意匠が変更になる場合がございます。ご了承ください。

販売元

ステップライン株式会社

東京本社

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 4-1-10 青木ビル 6F

Tel. 03-5733-3927 Fax. 03-5733-3928

<http://stepline.co.jp/> E-mail: info@stepline.co.jp

大阪営業所

〒540-0012

大阪府大阪市中央区谷町 1-3-23 大手前愛晃ビル 307 号室

Tel. 06-6450-5123 Fax. 06-6450-5124

